

日本とODA/投資:モザンビーク北部で何が起きているのか ～プロサバンナ事業とナカラ回廊開発に抗う農民たち～



アフリカ・モザンビーク北部（ナカラ回廊地域）での日本の援助事業「プロサバンナ」に地元農民が反対を表明してから6年が経過しました。

この度、そのモザンビークから農民・女性・環境・人権団体のリーダーなど約15名が来日します！

11月20日から開催される「3カ国民衆会議」に参加するためですが、日本の官民が巨額の資金・税金を投じて開発を進める同地域で何が起きているのかを「ぜひ幅広い層の日本人の皆さんに知ってほしい」ということで、【緊急報告会】を開催することになりました。

もともと「人びとのため」だった援助は現在、官民連携を推進する日本政府により「投資・貿易のための援助」と謳われるようになってきています。本当にこれでいいのでしょうか。日本の貴重な税金の使われ方はどうあるべきなのか。そして、ODAのありようは？

モザンビークの農民や市民社会の皆さんの声に耳を傾けながら、参加者と一緒に考えたいと思います。

2018.11.22(木) 17:00-19:00

【会場】参議院議員会館 会議室B107

※永田町駅から徒歩1分、国会議事堂前駅から徒歩4分

<http://www.sangiin.go.jp/japanese/taiken/shuhen/shuhen.html>

【集合時間】16:30-16:45（議員会館ロビー）

会議室には入館証が必要です。ご留意下さい。

- ・玄関入って右側の手荷物チェックを受けてから「モザンビーク」の紙を持ったスタッフのところにお越し下さい。
- ・遅れる方は到着時間を事前に申込みサイトの「備考欄」に記入の上、ロビーにてスタッフをお待ち下さい。

【お申込み】11月19日（月）午前10時までに下記サイトにご登録の上、議員会館までお越し下さい。

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/6e2052b3594382>

【資料代】1000円（学生無料）

【定員】100名



【主催】3カ国民衆会議実行委員会 【共催】プロサバンナにノー！キャンペーン（モザンビーク）【協力】日本国際ボランティアセンター、アフリカ日本協議会、モザンビーク開発を考える市民の会、No! to landgrab, Japan（その他募集中）

2014年に安倍首相は、「ナカラ経済回廊開発」に5年間で700億円の支援を表明。「プロサバンナ」は、この一環として日本がブラジルと共に進める大規模な農業開発事業です。事業に反対する農民や市民団体に対して、現地政府から弾圧、日本の援助を使った介入などの人権侵害が続いたため、去年4月、事業主であるJICA（日本国際協力機構）に対して、地元住民11名が「異議申立」を行いました。しかし、事業は継続し、すでに32億円もの税金が使われ、今後さらに巨額の資金が投じられようとしています。

「ナカラ経済回廊開発」下の炭鉱開発・鉄道事業によっても、住民は土地を奪われ、農作物の粉塵被害や健康への影響が生じています。ブラジルのヴァーレ社と三井物産の事業ですが、JBIC（国際協力銀行）から1千億円規模が融資され、日本の税金も使われています。また、モザンビーク政府の「巨額の隠された債務問題」や「債務返済不能宣言」により凍結されていた300億円の公的融資が再開される見込みと報道されています。十年前、日本は同国の債務を帳消したばかりです。

【プログラム】

17:00- 開催挨拶・趣旨説明

(大林稔 龍谷大学名誉教授 / モザンビーク開発を考える市民の会)

17:05- 報告1 「日本のODA/投資とナカラ回廊開発/
プロサバンナ事業の10年」

(渡辺直子 日本国際ボランティアセンター)

17:25- 報告2 「モザンビーク農民の声」?

(モザンビーク農民連合/ビア・カンペシーナ)

「農民を支えるモザンビーク市民社会の声」

(プロサバンナにノー! キャンペーン)

18:25- 報告3 「モザンビーク農民を支えるブラジル市民社会の声」

(ジルベルト・シュナイダー ブラジル小農連合 / ビア・カンペシーナ)

18:30-18:55 質疑応答

18:55-19:00 まとめ・閉会の挨拶

(船田クラセンさやか 明治学院大学国際平和研究所)



モザンビーク農民連合とプロサバンナにノー! キャンペーンが主催した「第2回3カ国民衆会議」(2014年モザンビーク開催)の様子。

*モザンビークの登壇者については、帰国後の人権侵害を避けるため、表示について調整中です。



■大林稔 (龍谷大学名誉教授 / モザンビーク開発を考える市民の会)

早稲田大学大学院経済学研究科で博士課程終了。民間企業、在ザイル大使館(経済担当専門調査員)、貿易研修センター(専任講師)、UNDPブルンジ事務所(シニアエコノミスト)、在フランス大使館(アフリカ担当専門調査員)、などを経て現職。アフリカの内発的発展と援助などのフィールドに携わる。



■渡辺直子 (日本国際ボランティアセンター)

南アフリカ事業担当/地域開発グループマネージャー。2012年より日本がブラジルとモザンビークで進めるODA農業開発事業「プロサバンナ」や土地収奪問題の現地調査に従事。2016年度より、GRAINの事業の日本との橋渡し役として、西・中央アフリカでのランドグラブ問題にも関わる。



■ジルベルト・シュナイダー (ブラジル、小農運動MPA / ビアカンペシーナ)

2004年からブラジル小農運動(MPA)に参加。現在ディレクター。ビア・カンペシーナの一員として、クレオール種(伝統的な固定種)やアグロエコロジーに関する提言を行っている。サンタカタリーナ州の植物燃料協同組合で、組合管理や種に関するテクニカルアドバイザーを務めた。2015年にはFAOのアグロエコロジー国際フォーラムに参画。



■船田クラセンさやか (明治学院大学国際平和研究所)

国際関係学博士。元東京外国語大学大学院教員。現在、自給農を目指しながら、ヨーロッパ・アフリカ・南米の小農や研究者・市民社会をつなぐ活動に従事。主・共著書に『モザンビーク解放闘争史』(御茶の水書房)、『解放と暴力-植民地支配とアフリカの現在』(東京大学出版会)。編著に『アフリカ学入門』

3カ国民衆会議(11月20日~22日東京にて開催) → <http://triangular2018.blog.fc2.com/>

【お問い合わせ先】3カ国民衆会議実委員会 事務局 triangularpc@gmail.com

モザンビーク開発を考える市民の会(鈴木、小出)